

令和4年度交野市長選挙立候補予定者公開討論会

令和4年8月26日（金）19時～

令和4年度

交野市長選挙立候補予定者公開討論会を開催致します。

それでは、3名の方の立候補予定者のご紹介をさせていただきます。

なお、敬称につきましては、『さん』で統一させていただきます。

座席につきましては、公平を期すため、くじ引きで決めさせていただいております。

画面左より、

下高原 正男さん

山本 景さん

黒田 実さん

まず、本討論会の趣旨について述べさせていただきます。

本討論会は、市民の皆様が住み暮らす町交野市がより一層輝く町へと推進できる一助として、青年会議所が、明るい豊かな社会の実現に向け、立候補予定者の皆様方のそれぞれのビジョンや政策の違いを知っていただき、有権者が公平公正な選択ができるよう忠実な立場として討論会を開催させていただく次第です。

私たちが暮らす町の市長を目指そうとしている3名の方がいったいどのような人で、この交野市にどのような思いを抱き、どのような未来を描こうとしているのか、そんな大きなビジョンを感じていただき、市長選挙の一助としていただきたいと思います。

立候補予定者の方へあらかじめお渡ししております、6つのテーマに沿って討論会を進めさせていただきます。

まず1つ目は、

市長を目指される立候補予定者の人となりを知るという上で、『自己紹介』をしていただきます。

また、市長となりうる人物を知る上で、親しみやすさといった側面も知ってみようと、休日の過ごし方や趣味、好きなものなどございましたら、自己紹介の中でご発言いただきたいと思います。

思います。

発言時間は3分間です。

それでは、下高原 正男さん  
よろしくお願い致します。

下高原正男です。

龍の孫で正しい男、下高原正男。

交野幼稚園に入る時ぐらい、親戚や祖父の教え子たちから、龍の孫と言われていました。  
祖父の影響です。

交野幼稚園、交野私立郡津小学校、交野市立第二中学校、そして、交野高校へ進学いたしました。

その時考えていたのは、日本国憲法、国民主権恒久平和、基本的人権の尊重、そこから交野市民である自分は、日本の国の主であること。日本の国の主として、恒久平和をどうやって実現したらいいか。

戦争の恐怖をなくすには、戦争の原因は何か、戦争の原因は人間、愚かな人間。

高校を卒業して、立命館大学に入って、二十歳になって人間になりました。34年と8ヶ月と3日、人間になって、それだけ過ごしてきました。

立命館大学経済学部卒業後、仏壇の泉屋に就職しました。お仏壇屋に就職して、最初に確認したことは、仏教の真髄は何か、仏壇屋として、近隣の訪問、そして新仏の訪問、そして時に、京都の本山の方に行き、掛け軸を受けたりして、そういった仕事をしてきました。

そこで得た仏教の真髄を確認したことは、後々、非常に役に立ちました。

色々な営業、京都でタクシードライバーを10年10ヵ月していたこともありました。  
京都において、たくさんの海外から来られた人たち、地方から来られた方は、お寺回りをし、仏教の真髄とは何か、そういったことを求めて来られたそういった方に喜んでもらえるようなタクシードライバーとして、感謝されて市長に動かされました。

続きまして、山本けいさん  
よろしくお願い致します。

山本 景でございます。

現在、42歳。交野出身で、交野育ちでございます。

かいち幼稚園を卒園し、磐船小学校、交野第4中学校を卒業し、その後野球はしてないのですが、大阪桐蔭高校を卒業し、和歌山大学経済学部、大阪大学の大学院、主に統計、経常形態についての研究をしていました。

その後、ただ単に就職するというのは抵抗感がございましたので、学生の頃に起業をし、インターネット上でホームページや掲示板を無料で提供するサービス、40万人ほど会員さまがいらっしゃいましたが、そういう事業を展開しており、のちに、その企業につきましては、ライブドアの堀江貴文氏に売却を致しました。

売却後、民間企業に就職、信用金庫の中央機関である信金中金、野村証券の課長代理をしていましたが、夕張、交野といった財政が厳しい故郷を愁い、まあだったら、サラリーマンを辞めまして、思いきって地元に戻り、政治活動を始めました。

大阪府議一期、交野市議二期を経て、現在に至っております。座右の銘と致しまして、吉田総理の言葉、『死してもなお不朽の見込みあらずばいつでも死ぬべし』。

私の政治活動の原点とも言える言葉。やはりこの交野に名を残して、市民の皆さまのために働きたいという思いを表した言葉であると考えております。

趣味につきましては、サイクリング、これにつきましては、普段私をご覧になられている方におきましては、ご理解されていると思いますので、割愛させていただきます。あわせて、自宅で野菜を栽培するいわゆる家庭菜園。それが趣味で、休日とか空いた時間にやっております。意外かもしれないですが、今だったら、空芯菜とかゴーヤとか、オカワカメとか全部みどりですけど、庭に植えて、水やりしたり、苗を植えたり、収穫したりしています。こういった一面もありますけど、やはりこの故郷交野市を変えるために頑張りたいという思いで取り組んでおります。

最後に、黒田実さん

よろしくお願ひ致します。

改めまして、黒田実でございます。まずはですね、このような素晴らしい機会をいただきまして、感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私の自己紹介ですが、生まれは、昭和44年7月。出身は奈良市です。交野市政に直接関わ

ったのが、2003年、交野市市議会議員に当選させていただいて、その後、2014年現在の重責を担うことになり、現在に至っております。

趣味は、身体を動かすことは好きですので、野球、ソフトボール。なかなか休日、スケジュールが合わない時があるんですけども、それでも試合を観に行ったりしています。

冬場は、スキーが好きです。

なかなかこれも行けていないのですが、スキーが大好きです。

好きな食べ物、お豆腐とちくわ、それと、ご飯に海苔が大好きです。好きな音楽は、昭和世代でサザンオールスターズが大好きです。好きな言葉、『笑門来福、笑う門には福来たる』あとは、照天一隅という比叡山の有名な言葉なんですけども、好きな言葉です。

休日の過ごし方。なかなか休日まとまって朝からというわけにはいかないんですけど、朝から休みの日は、散歩。2時間くらいかけて汗を流して、ストレッチをしたり、身体をしっかり動かして、自分が好きなので。あとはですね、ゆっくりして過ごしていることが多いですが、時間があれば、温泉入って浸かることも大好きですし、自然あるところで、ゆっくりと過ごすというのが好きです。

尊敬する人ですと、やはり男ですから、父親ということですけども、歴史上といえば、上杉鷹山。私、NHKの大河ドラマが大好きなので、結構、非常に影響を受けたりしています。

## 2つ目のテーマ

『交野市長になぜ立候補するのか』

動機と市長を目指すに至った経緯をお聞きしたいと思います。

また、職責を全うするための取り組み方や考え方などご自身の理念などもお聞かせください。

それでは、順番を変えまして、  
山本景さん宜しくお願いします。

はい。

私の市長選への立候補の理由ということでございますが、  
今の、市民の皆さんの声を聞かない市政を終わらせるために、立候補の決意を致しました。

とりわけその中でも、ゆうゆうバスの廃止を反対された市民の皆さまからの後押し、また、施設一体型小中一貫校の問題についても、多くの市民の方々が声をあげましたが、そういつ

た多くの市民の皆さまからの後押しを受けて立候補を決意するに至った次第でございます。思い起こせば、平成30年8月頃、黒田市長については、選挙の直前のビラですけれども、地域の移動手段の確保と明記をしたビラを配っていたにもかかわらず、その半年後には、京阪バスに対しまして、ゆうゆうバスを廃止をするという通知をこれ事実として出しております。怒った老人会、星友クラブ、障がい者団体の皆さまが立ち上がって、実に多くの署名を集めて提起をしようとしたにもかかわらず、現市長は受け取りを拒否をして、副市長が代わりに受け取った。その後、コロナの関係もあって固定バスの利用客が大幅に減少しているにもかかわらず、一方的にゆうゆうバスを公約にも書いてもいないのに、廃止をいたします。その後、京阪バスについては路線をかなり減便等致しまして、市民の皆さまの脚が失われたのは、言うまでもございません。

施設一体型小中一貫校に関しましても、プールすらない87億円もかかる事業を実施に関しては、多くの住民の皆さまが反発をし、住民投票の実施を求める署名直筆捺印押印の署名を7,000以上、有権者の実に11%にもものぼる、皆さんが集めたにもかかわらず、市長は反対意見を伏して、住民投票を反対の意見を伏して、議会に上程し、今、市長選の前に解体とその他諸々と一緒にデザインビルドとして工事の発注がされて今解体工事がなされているという状況です。

逆に、市庁舎整備については、100億円にまで一時高騰して、公約にしていたにもかかわらず、整備がされていないという状況。こういった市民の声を聞かず、進める行政運営、そしてまた、役所の移転形態、書いているのにやらない、こういった市政運営を全面的に見直すために、変えるために、今回立候補を決意をすることとなりましたので、ご理解賜りすようお願い申し上げます。

続いて、下高原正男さん  
よろしく申し上げます。

交野市市長に立候補した理由。

龍の孫として恒久平和の実現を成し遂げ、交野を世界中から感謝される街にするため、立候補致しました。

手段方法は、『原天回帰』。

愛に依る問題解決手法、原天回帰で、恒久平和の実現を成し遂げ、交野を世界中から感謝される街に致します。2月24日、隣の国が戦争を開始しました。世界のトレンドは、第三次世界大戦。エネルギー問題の国際エネルギー情勢の悪化によって、物価はどんどん上がっていく。世界中の国は、軍事費をどんどん増大させていく。来年、再来年、世界同時不況。今年もう秋から突入するという世の中。

日本では、7月8日、元総理暗殺。

これによって3年後、2025年審判の時を迎える。平和国家が軍事国家になろうとしていく。その世の中、それをくい止める、交野市長がくい止める。第三次世界大戦を阻止するのは、次の交野市長だと考えています。恒久平和の実現、それには原天回帰。

愛に依る問題解決手法、原天回帰。そして、和の概念。これを世界に教育産業として輸出して、恒久平和の実現を成し遂げ、交野を世界中から感謝される街にしていく。そのために立候補致しました。

黒田実さん、

よろしくお願ひ致します。

改めまして、黒田実です。

交野の町で、かつて、昭和の時代、児童生徒数のピークが一万五千人。令和になりまして、六千人。令和2年に国税調査が行われまして、高齢化率が29%、これが少子化高齢化、人口減少の現実でございます。

長い間、交野は、転出が転入を上回る状況が続いてましたが、実は、ここ数年で、転入が転出を上回る転入超過、全国の自治体では2割か3割です。の流れが増えてきました。若い世代、子育て世代の流入です。これまで待機児童の解消、また、子ども医療費の助成につきましましては、これまでは、中学生から高校生世代まで拡充など、子育て支援を進めてきました。

星田北エリア、実はもう大型物流センターが2棟完成して、そしてJR星田駅前では、新たなロータリーも完成しました。今後、約700戸くらいの住宅整備が予定されています。

若い世代の住民誘致、そして、雇用に繋がる企業誘致、また市税の増、上下水道料金の増等の経済効果、これが期待からいよいよ自信、確信に変わってまいりました。この間も実は、交野は公共施設の老朽化進んでおります。未来を生きる子どもたちのために、やはり新しく学校環境を整えるべきだ。その思いで、令和7年春開校予定で、新しい学校作りに着手をいたします。学校環境大きく変わります。この間、公立のこども園の民営化、年間6,300万円の運営費の縮減となりましたし、給食センター業務、民間委託しまして、年間約7,000万円の運営費を縮減することができました。こうした取り組みをこれからもさらに進めていく、この交野を住んで良かった生まれて良かった住み続けたい、そういう町にするために、まだまだ取り組みは続いていきます。多くの市民の皆さまと共に、この町をさらに前に一歩進めるために、立候補の決意をさせていただきました。

### 3つ目のテーマ

『交野市の抱える取り組まなければならない課題とそれを解決することで得られる効果とは』についてお伺いさせていただきます。

黒田実さん

交野市が抱える課題ということで、大きくは3つ。先ほど申しましたように、インフラも含めて公共施設、建物、これが老朽化が着々と進んでおります。これは交野だけではなくて全国の自治体が抱える大きな問題。やはり都市機能の維持、安心安全な暮らし、そして豊かな暮らしのために公共施設、インフラ施設をしっかりと維持していく。これは多くの財源がいるのですが、しっかりと進めていかなければならない。これが大きな一つの課題だと思います。

それと、やはり高齢化が着々と進んでおります。認知症対策でありますとか、地域包括ケアシステム、でまた、生活交通の確保、移動の確保、ほんとに大きな課題になってくると思っております。コミュニティバスの導入というようなご意見もありますが、私はですね、コミュニティバスもし導入すれば、今現在走っている路線バスの撤退が、大いに予想される。というふうに考えていますし、さらに他市でみますと、コミュニティバス、これ運営にかかる市の負担、億以上の負担をかけているというのも現実ですので、ほんとによくよく考えながら移動確保していかなければならない。そのために、現在の公共交通、路線バスの維持、継続をしていくのと併せて、外出支援などについてもさらに、今バス、鉄道の補助やタクシーチケットの助成をしていますが、さらにそれを拡充していきたいというふうに考えております。

交野南部エリアにおいてはですね、今、路線について新たな路線を事業者を考えていただいております。JR 星田駅の乗入れ増、そしてまた、フレンドタウン経由して交野市駅に新たなバス停も現在協議調整中であります。

3つ目はですね、やはり安全安心な町、災害対策、そしてまた、防犯対策ということになると思います。災害はほんとに甚大化しています。特に交野は大雨、警戒しなければならないと思います。浸水被害を軽減するための防災対策、さらには、高齢者や障がい者の方々のしっかりと避難するための計画作り。そして、通学路の安全対策。これも大きな課題だと思います。今、地域の多くのボランティアの方々で頑張っていただいておりますが、やはり高齢化進んでおります。市としてもしっかりと交通専従員など配置することも、今後しっかりと検討していきたい。この3つが大きな課題と考えております。

山本けいさん

私から、交野市の抱える課題として、やはり、いわゆる市民の声を聞かずに、ハコモノ建設を進める市政について。

2つ目として、やはりこの人口減少。交野で起きてる人口減少の問題が課題であると考えております。市民の声を聞かないことに関しては、ゆうゆうバスの廃止、やっぱり学校の統廃合の話、先ほど話しました学校の統廃合のところでは言った、これ始め、40億だったんです。40億と言って、3校別々に建て替えるより安いからと言っていたのが、なんやいつのまにやら、86億、87億円の総事業費にまではね上がった。これだったら、小学校の統廃合だけだったら、数億円で済む。はるかに合理的で安くて、子どもたちの、教育環境にも影響を与えない、こういったことが期待がされているにもかかわらず、市民の声を踏みにじり、今、施設一体型一貫校87億円もかかる事業を突き進んでいるというのが、市民の声を聞かない市政運営の実態でございます。

こういった問題点がありますから、住民の声がしっかり市政に反映がされますように、例えば、自治基本条例とかいう条例があります。住民投票を一定制度化とかをするその都度条例を制定するんじゃなく、議会や市民の皆さまからの願いに応じて、市民の皆さまが意思表示をするしくみを導入をすることで、市民の皆さまの負担を軽減してより、皆さまの民意があらわれやすいような制度を私が導入をしていきたいというふうに考えております。人口減少の問題。転入超過、転入超過という方、いらっしゃいます。事実として、この8年間で交野市の人口は、800人減っております。人口減少がこれほんとの話なんです。例えば昨年度に限って言ったら、生まれてくる子どもの数が500人で、亡くなる方が800人なんです。自然減がこれ300人もいるんです。なのに、そのことを言わずに、一方的に転入超過、転入超過とだけ言うのは、アンフェアといわざるを得ません。交野市の特徴として、子育ての町と言いますけども、生まれてくる子どもの数が特に少ないんです。これをなんとかしないといけない。だから、生まれてくる前の方が、より来やすいように、例えば、不妊治療への公費助成を増やすだったり、タクシーの利用を促すチケットをより多く配るだったり、もしくは出産の前後の家事代行とか、そういった出産前後のことを取り上げ、力をいれて、人口減少に打ち勝つ、転入者を増やし、より多くの子どもがこの交野で生まれるような町を私はこの交野で実現して、人口減少に一步克服をしていきたい。と考えております。

下高原 正男さん

交野市の抱える、取り組まなければならない課題、数えきれないくらいあると思います。全ての問題を解決するにはどうすればいいか、まずは全て、クリアな状態、白紙の状態にして、

過去から現在の状況確認、そして、関係者全員の意見を確認して、原因解明した上で、問題を解決する。円満に解決する。そのために公正な判断で、みんなが納得する解決、そういったものを進めていく。それが、原天回帰という問題解決手法で、交野市にある全ての問題を解決していきたいと、考えています。

全ての問題。安心安全と言いますが、第三次世界大戦が起こるのではないかという不安、それに対して、どう答えるのか、それは心の問題にもなってくるんですけども、将来、3年後、憲法が改定されれば、日本の国の主ではなくなるし、恒久平和も上軍からカットされ、基本的人権も制限がかかる。そういった世の中になってしまえば、平和国家が軍事国家になってしまえば、世界中から日本はもう駄目だと思えば。世界は、今現在、2月24日から始まっている第三次世界大戦のトレンド、それにのっているのです、そのまま突き進むほかない。

圧倒的絶望感。そんな状態なので、世界中は、圧倒的に、ピンチ、これは逆にいえば、交野にとっては絶好のチャンスであり、最後のチャンス。恒久平和の実現を成し遂げ、世界中から感謝される街に、交野が世界中から感謝される街になる、そういう状況であると考えます。そのために、問題解決手法、原天回帰、そして、和の概念、これを世界に輸出して、恒久平和を成し遂げ、交野を世界中から感謝される街にしていく。と考えます。

それでは、4つ目のテーマ

『子育て世代・若い世代へ向けた政策とは』についてお聞ききして参ります。

下高原正男さん

教育というものにかかわってくるとお思いますので、まずは命とは何か。そして先ほど言っていた仏教の神髄に、キリスト教の愛、そして和の概念。そういったものを子供たちにどう教えていくか。子供は国の宝、生まれてくる子供はみんな仏。子供たちの未来を守るために何をするのか、何ができるのか、今世の中がどうなっているのかをもう一度考えて、そして先程言った国民主権、日本の国の主、子どもは日本の国の主、赤ちゃんでも日本の国の主であると。

小学生中学生高校生、日本の国の主として、平和とは何かもう一度考えて、自分が主である。そう考えたらやる気が出てきます。自主性や主体性といった、自分が主役、その自覚が出てくれば、教育、自分から自ら進んで勉強するという子供になるのは、塾講師の経験からそれを体験しています。自分が主役、そう考えたら自分から勉強して驚くほど成績が上がる子どもでできます。やる気が大事、そしてそのやる気をどうやって引き出すか、それはもう本人に自覚してもらおう。自分が主役であるということをしっかり自覚している。教育産業。特に交野市民憲章、和の概念、日本の心、交野の心、この和の概念をもう一度しっかり認識してい

ただき、自分が主であるという自覚を持って、そして生きていける世の中にしていきたいと考えています。

黒田実さん

子育て世代に対して、というテーマでございます。やはり私はこれは子育て支援、教育環境の充実です。子ども医療費、先程言いました子ども医療費の助成は中学生から18歳まで拡充、しっかりとこれからも継続していきたいと考えておりますし、またで保育でいけば病児保育、あるいは障がいがある園児のサポート、これも大切だと思います。教育についていえば、ざいしき教育あるいは英語教育の推進、そういった学力もさることながら、やはり子どもご家族への心のケアが学校現場で大事だという風に強く感じています。

スクールカウンセラーあるいはスクールロイヤーの配置なども検討していかなければならないと考えてますし、学校環境、新しい学校づくり、そして他の学校もこれから順次改修改築していく。その間に放置できないのはトイレの環境。これはしっかり改善していきたい、と考えております。

新しい学校について、小学校中学校別に整備してはどうか、そういったようなご意見もあるんですが、これも気を付けないといけないのは、実はそれをするとですね、市の負担が増えます。やはり、違約金・損害賠償の支払いなども想定しなければならないのでこういった支出を市民に負担していただくなくてはならない。そういう恐れがある。それともうひとつは、実は今から再建築すると少なくとも3年は完成が先延ばし。これは子供たちにとって大きな負担になると考えています。今小学校6年生の子供は令和7年春完成予定で、中学校3年生で新しい学校に戻ってこれるような整備計画を進めているのですがこれがどどんのびてしまう。子どもたちに負担をかけてしまう、ということをしかりと考慮しないといけないと思います。あと、総事業費87億円かかっているのですけれども、実は市の負担というのをしっかりとみていただきたいと思います。国の補助金ですとか様々な制度で今だいたい市の負担としては半分程度におさえられるように今国・大阪府と協議調整中でございます。そうした学校環境の整備も含め、あともう1つですね。やはりヤングケアラー対策これも大事になってくるのかなと、そういった対策も含めて子供が元気に成長する環境づくりを目指してまいりたいと思います。以上です。

山本けいさん

わたしからは何点か子育て世代への政策を訴えたいのですがけれども、やはり産前産後の支援であったり、給食費については段階的に無償化をする、ただ少人数学級を更にすすめる、またプールのない小中一貫校については大幅に見直しをするといったことを掲げたいというふうに考えております。

先程も申しましたとおり、交野市においては年間の出生数が 500 人しかいない。死亡数に比べ圧倒的に少ない地域でございます。出産前のかたがより来やすいようにタクシーの補助費用を拡充するであったり、不妊治療への公費助成といった様々な施策を実現することで人口増加や出生数の増加を図りたいと考えます。給食費については明石市とか先進的な市については中学生、年間 4-5 万かかる給食費について無料化をしております。そういった取り組みをしたいと考えております。少人数学級につきましても国の施策で小学校の 35 人以下学級というところが進んでいますから、そこはもう小学校 35 人以下学級やっております。そこで得られた財源等を利用して中学校についても 35 人以下学級を早期実現することで教育環境の向上を図りたい。

プールのない施設一体型小中一貫校 8 7 億円もかかります。国等からお金をもらうためには一中を売却するのか、今の長宝寺小学校、みらい小学校を転用するのか、かなりハードな条件をクリアしないといけないにもかかわらず、それを言わずに国から半額程度貰えるなんていうのはあまりにも乱暴な議論であると言わざるを得ません。私はじゃあどうするのかこの問題について申しますと、今の業者とまずはきっちり話しあいをして建築面積を減らす。当然建築面積を減らしたら負担は当然減ります。総事業費を半分程度におさえ、一方で国からの、これ小中統合になりますから約半額国からお金を貰えるという制度については利用が可能でございます。そういった大きなスキームの見直しをしたい。違約金の話がありましたけれども、違約金の話が出ざるを得ないようなことをしたのは誰なんだと声を大にしたい、大にしていいたい。黒田実氏に他ならない。乱暴に市民の意見を聞かずに、一方的に市長選挙の前に公募をするから、こんな見直しにするより違約金の話が出ざるを得ないようなことをしたのは黒田実氏に他ならない。こういったことを市民の皆様については、ぜひぜひご理解を賜りますようお願いを申し上げます、若者世代へ向けた政策といたします。

## 5 つ目のテーマ

『交野市の景気をより潤すにはどうしたらいいか』

下高原正男さん

景気をより潤すにはどうしていくべきか。教育産業を考えております。愛による問題解決、原天回帰。全てを一旦クリアにして白紙の状態にして、過去から現在の状況確認、そしてすべての関係者の意見確認で原因を解明し、公正な判断で円満解決する。そうして和の概念。これを教育産業として海外に輸出していく、ということを考えています。

そうした教育産業。その前に、まず交野市内その全ての問題を原点回帰で解決していく。自分の心の不安、そういったものは自分で解決できるようになる。そのためには公正な判断、キリスト教の愛と仏教の神髄、それを基本にして問題を解決する。円満に解決する。そのために教育産業、これで潤わせていこう。そういうことを考えています。原天回帰、愛による問題解決手法。これは昔から考えていたことで、仏教、それは日本に古来からずっとある普通にある考え。その仏の道。それをいかに海外のかたに伝えていくか。戦争を起こらないようにするために和の概念。この和のコンセプトをいかに海外の方に伝えていくか。海外の方にはキリスト教の愛というものがあります。仏教の神髄と通ずるものがある。それを伝えて恒久平和の実現を成し遂げ、交野を世界中から感謝されるまちにしていく所存です。

山本けいさん

私がこの交野市の景気をよくするために考えていることはまずはハコモノ行政から脱却する、そして得られたお金については、この地域でお金が回るようにすることによりまして交野市の景気を向上をさせるというものでございます。

たとえば施設一体型小中一貫校、何故か基本設計やった業者がそのままデザインビルドの公募に参加してもいいと、聞いたことのないような公募がおこなわれて、その会社が仕事を取っちゃった。でひとつそれをとって、じゃあそれでどこまで地元が大手ゼネコンの下請けの関係で得た仕事をとっていけるのか、これでは域内にお金が循環するとは言えない、と私は考えます。もっと地域にお金がおちる仕組みを取らなければならなく、取るべきだったと考えます。

域内循環をするには例えばどうするか。例えばコミュニティバスというのも一つの考えだと私は思います。路線バス撤退するとか言う黒田氏もいらっしゃいますけども、実際にいったら京阪バスを含めた路線バス事業者に四条畷市のようにお金を払って、より便利な公共交通網を交野市内で構築をする。今家にいらっしゃるご高齢のかたがより外出をしやすくすることによりまして、地域にお金を落とす、交野市内でお金を落とす仕組みをつくって、交野市の景気を潤わせる。じゃあ財源どうするのか。億かかる、いや億かかるんです。かかります。四条畷市も一億程度のお金はかかっております。それをかける財源どうするのか。だったらハコモノ行政をやめてこういった市外に流出する大きなハコモノをやめて、市役所の建設であれば耐震工事で浮いた財源を市民の皆様のために、高齢者の外出支援のために、コミュニティバスのために使った方がはるかにいいと私はそのように考えます。

もとより、この交野市というのは比較的市民のかたは裕福なかたが多い。市民当たり一人の所得はだいたい年間 350 万円。でこれは北河内ではナンバー 1 になります。なかなかこの

お金が域内この交野市内で循環しにくい傾向がございます。だったらそれをいかにこの地域でまわすのか、という仕組みを考えて導入するほうがはるかにいいと思います。高齢者雇用に関しても同じです。シルバー人材センターの駐輪場の管理だって一方的に公募に変えて、結果、京都の業者が仕事をとってしまった。交野市の高齢者雇用が失われお金も当然域外に行ってしまう。それで景気が良くなるはずなどありません。80 名の高齢者のかたが仕事を失って、そういった強引な行政運営者が域内でひとりあたりの市民所得が高い地域なので、お金が回る仕組みを考案し導入することで、私はこの交野市の景気を潤す方策になるのではないかと考えております。

黒田実さん

交野の景気をよくする。冒頭でも先ほど申し上げましたようにですね。

現在第二京阪の整備効果、これが期待から現実、確信に変わってきております。こうした星田北エリアのまちづくりの推進、さらにはですね、まだ向井田・寺地区というのがあります。いきいきランド向かい側。このあたりもしっかりと農業と調和のとれたですね、良好な市街地整備にむけた取り組み、特にこのエリアは新駅誘致を含めたですね、取り組みを進めていくべきではないかという風に考えております。

また、第二京阪沿道で言いますと、第二京阪沿道から久御山線まで、実は未整備区間の天の川磐船線というのがあります。これもしっかりと整備に向けて取り組んでいきたいという風に考えております。要はやはり景気というものは、人流・物流をどう交野に呼び込んでくるのか。域内流通も大事なんですが、せっきく第二京阪道路が通って、やはり広域で人流・物流を交野に呼び込んでくる。これが人口減少社会の中での 1 番大切な考えかただと私は思っております。こうしたハードだけじゃなくて、ソフトにおいては企業誘致促進条例、簡単に言えば企業誘致条例、これ実はもう 2 年前に作りました。中小企業の新築、増築、あるいは設備投資に対して市が奨励金を出します、という制度です。

こうした住民誘致・企業誘致の取り組みをしっかりとこれからしていく。さらにはですね。若い世代に住宅取得ですとかリフォーム最大 70 万円補助を出す制度をスタート致しました。とにかく若い世代にきていただく。これが大事なんです。先ほどですね、その人口の話が出ましたけど、人口減少時代のなかで総人口の話はあまり私は意味はないと思っています。人口増加のときに総人口イコール現役世代増。減少時代のなかにおいては。現役時代の数字に着目して社会増をしっかりと見ながら、まちづくりを進めていくというのは基本だと思っております。なお、学校についてはハコモノ行政、というお話がありますが、これはですね、私はですね、ちょっと学校はですね絶対に必要な施設なので、絶対ハコモノ行政ではない。未来を生きる子供たちのために学校を新しくする。これは大人の責任だという風に思っております。そのほか、自然を活用した交流人口の増加、これにも取り組んでまいりた

いと考えております。以上です。

#### 6つ目のテーマ（最後のテーマ）

##### 『少子高齢化の存在を交野市はどうしていくか』

山本けいさん

これは全国的には人口減少であります。ただ交野はわたしはそれは違う、わたしはこの交野を変えることができる、わたしはそう思っております。といいますのも、交野というのは交通の利便性の比較的高い地域です。住環境もよい、そして環境もいい環境が残されている。そういったなかで、戸建とか一定の需要があるまちづくりさえきっちりやったら、今よりもはるかに転入超過にすることができてそして出生数も増やしたら人口減少ではなくなる。

そういったまちづくりをわたしだったらこの交野では出来るのではないかという風に思っております。事実として令和3年度で交野では800人のかたがお亡くなりになっておりますけれども、生まれてくるこどもの数は500人程度。だからこの生まれてくる子供の数を増やすための施策をまずは市として取り組むべきだと考えます。不妊治療の助成、これは繰り返しになりますけれども、不妊治療の助成だったり、もしくは生まれてくる子供の親の為の様々な助成事業をパッケージ化することで、提供することによりまして、そういったこれからこどもたちを生む世代の皆様が来るようにして、今よりも転入超過のまちにする。そして一方で高齢の方で言ったら、人口動態でみたら転出超過なんです。高齢者のかたに住みよいまちなのか。と考えたら果たしてどうなのか、と思う市政が続いております。ゆうゆうバスを一方的に廃止をする。外出支援だって2300円これじゃあ数回分の外出支援にしかない。だからこの問題については市が一定財政負担をすることによりましてコミュニティバスを導入をして、より外出がしやすい、高齢者が交野から転出をしなくても住み続けられる、そういったまちを目指す。

そしてただ単に住んで外出をするだけじゃなくて、高齢者雇用の問題についても考えなくてはなりません。この4月に一方的に駐輪場の契約については京都のある事業者に変更され、約80名の高齢者のかたが一方的に雇用を打ち切られるという事態に陥っております。そういった乱暴な市政運営をするのではなく、高齢者雇用にも重点をおくために例えば通学路の見守り今は何故か交野みらい小学校のところだけ黒田さんがお金を払ってやっておりますけれども、他の校区全ての校区で子どもたちの見守りをやる。その際には高齢者のかた、シルバー人材センターもだしいろんな皆様等を雇用をして高齢者雇用に繋げて、結果として外出しやすい、仕事がある、そういう街をつくって、交野市の転出を抑え、出生数を増やす。そして高齢者の転出を減らす。そういったまちづくり。人口減少とは違う、選ばれるまちにわたしは交野を変えてまいります。

下高原正男さん

少子高齢化の問題。これは問題、色々と分けて考えていくべき問題です。細分化、色々な原因がある。それを一つずつ解決していくしかない。問題解決は、先程からいっています原天回帰、まっさらな状態なクリアな状態白紙の状態にして、もう一度、過去から現在の状況を確認して、関係者全員の意見を確認。そして原因を解明する分析する。そこから公正な判断で円満解決を目指す。みんなが納得できる未来を作れる。そういった解決に向けて、どうすればいいかということを考えていく。そのとき、公正な判断にあたってはキリスト教の愛と仏教の神髄、そしてそういったものを基本にして、円満解決に至る道をみんな考えていく。それぞれが考えられるように、原天回帰のやりかたをみんなに伝授して共有して、そしてそれをほかの市町村、海外に輸出、教育産業として輸出していきたいと考えております。そして恒久平和の実現をなすとげ、交野を世界中から感謝される街にしていきます。

黒田実さん

少子高齢化の問題。これはですね。いろいろと奥深いテーマだと思います。まずこの少子化という言葉でわたし先程から若い世代の住民誘致、住民誘致でもこれは少子化対策ではありません。少子化対策とは子供を産み育てやすい環境づくり社会づくり。ですから、これは交野市としてもそうなんですが、国も含めて全体で子育て・教育のさらなる社会化を進めていかなければなかなか解決しない問題だという風に思っております。

子ども医療費の助成も子育て支援のひとつなのですが、やはり今若い子育て世代は大変な思いをしている。そこをどう社会全体で支えていくのかということが大事な視点になるというふうに思っております。で、もうひとつ、高齢化の話です。これも間違いなくですね、これから明らかにさらに高齢化が進んでいく。高齢化高齢化っていうとですねお年寄りに対しては、それは長寿社会という言葉でいいと思うのですけれども、私自身も明日は我が身です。やはり外出支援というのはこれから大きなテーマになってまいります。コミュニティバス・ゆうゆうバスというのですがバスとついているのですけれども、まったく別物。コミュニティバスは誰でも乗れるバス。それに対してゆうゆうバスというのは支援の限定的なバス。乗車料金が入るからと言ってもですね、これほんとに市の負担というものをよくよく考えて検討していかなければならない、多くの負担を市民のかたがたに負担いただくとなりかねないので、わたしとしては公民連携、民間事業者としっかり連携しながら現在の路線バスを拡充していく、新たな生活交通を作っていくということがより現実的だと思っております。そして障がい者を含めていけばやはりバスではなくタクシー補助、そういったタクシー補助の拡充をこれからはっきりと進めていきたいと思っております。高齢社会ということでいけば、やはりみんなが健康寿命をのばしていきいきと住み慣れた地域で住んでいただく、そういった交野をこれからはっきりとですね、皆さんとともに作っていきたいという

風に考えております。

『最後にフリーテーマとして、これまでの発言で伝えられなかった点や補足したい点について』

山本けいさん

私はこの交野のまちのあり方を変えます。交野の市民の皆様と共に変えます。では具体的にどうするか。今のハコモノ行政については全面的に見直します。学校はハコモノではないという黒田さんもいらっしゃいますけど、これはもう中田仁公さんのところに耐震工事は終わっているんです。これを敢えて壊して、また築 50 年 60 年安全性が確認されているのに壊すから、補助も減らされ、施設一体型小中一貫校 87 億円。これをハコモノと言わずして何をハコモノというのか。

小中一貫校 87 億円、いきいきランドに役所を移転したら 100 億円。こういったお金や負債によって市民の皆様が負担をいたします。20 年ローンとしたら年間 3 億とか 5 億円とか、3 億 5 億という金額がいかに大きいのか、まあコミュニティバスは財政負担が大きい。大変なことになるということを黒田さんおっしゃいます。まあコミュニティバス四条畷でもやっていますが 1 億とかそんなもんです。ハコモノに比べたら全く金額が違うんです。そういった無駄なハコモノにお金を使うよりも市民の皆様が外出しやすいコミュニティバスにしたほうが、はるかに経済的な効果そして高齢者の皆様への施策になるという風に私は考えました。そして当然高齢者の方だけではございません。これから生まれてくる子供のためにも、もうすでに交野市においては子育て世帯は一定転入超過でございます。これから生まれる子どもたちの世帯はあまり来ておりません。そういった方々にも来てもらえるようにそして出産しやすいように、そういった出産助成といったところを含めた、不妊治療も含めた、まちの今のあり方を大幅に刷新して、より景気のよい、より良い街を、そして市民の声が届くまちに、私は皆様と共に交野を変えてまいります。

黒田実さん

ええもう、あの司会者の方ですね、色々とテーマを設定していただいて 言い忘れたこと、ということになるんですけれどもね、ほんとにこの 2 期 8 年で冒頭申し上げましたけれども交野のポテンシャルほんとにすごいな、という風に感じてまいりました。で、先ほど申し上げた色々な取り組み実績について、これはもう私 1 人の力ではありません。本当に市民の皆様方や団体の皆様、議会も含めて多くの皆様のご理解とご協力で進めてきたものだと思っております。本当に心から感謝申し上げたいと思います。

そして、このポテンシャルのある交野、更にやっぱり前に進めていき、やはり期待から自信、あるいは確信に変わってきたと私は思っています。そうしたこの街をこれからも前に進めるために当然ですね、まずは、感染症対策、未だに収束の見通しが見えない。しっかりと命、暮らし、そして子どもたちの成長を守り、社会経済活動や医療活動を維持する感染症対策に取り組みながら、交野の強みを生かし、街の活力維持と成長、そして先ほど少子高齢化の話がありましたが若い世代が定住し、そして現役世代が高齢世代を支える持続可能な地域社会、また、障害のあるなし、あるいは性的マイノリティなどにかかわらず多様性を尊重する、そして暮らしの安全、安心、平和を大切にする地域共生社会。これはしっかりとこの交野で、市民の皆さんに進めてまいりたいと考えております。よろしくお願い致します。

下高原正男さん

龍の孫で正しい男は恒久平和の実現を成し遂げ、交野世中から感謝される街にすることを考えております。世界のトレンドは第3次世界大戦に向かっています。国際エネルギー情勢は悪化の一途をたどっています。来年再来年は世界同時不況、それがやってくるということがわかっています。3年後、憲法改正、平和国家が軍事国家になろうとしているこの世の中で、恒久平和、永遠の平和、戦争の恐怖がないそういった社会をつくるために和の概念を世界に輸出、教育産業として和の概念を、海外の特に軍需産業、武器商人と呼ばれる方々、彼らの心にどれだけ影響を与えられるか。まだあと3年、審判の時までまだ3年、こっから、まだ時間は残されているので、全力で命をかけて恒久平和の実現を成し遂げ、交野を世界中から感謝される街に、2025年12月23日させていただきます。

立候補予定者の用意した質問に回答いただきありがとうございました。

公開討論会にお越しいただき誠にありがとうございました。

青年会議所主催の公開討論会をご視聴いただきありがとうございました。